

平成27年9月

# 南地勇 学位論文審査要旨

主 査 久 郷 裕 之

副主査 竹 内 隆

同 久 留 一 郎

## 主論文

Exploring new gene integration sites for gene knock-in by gene-trapping strategy

(ジーントラップ法による遺伝子ノックインのための新規遺伝子導入領域の探索)

(著者：南地勇、吉村祐貴、中村和臣、真砂有作、大林徹也、奥田智彦)

平成27年 Transgenic Research 24巻 549頁～559頁

## 参考論文

1. The translation elongation factor eEF2 is a novel tumor-associated antigen overexpressed in various types of cancers

(翻訳伸長因子eEF2は新たな腫瘍関連抗原であり様々なタイプのがんにおいて高発現している)

(著者：尾路祐介、辰巳直也、福田茉莉、中塚伸一、青柳さやか、平田江里加、南地勇、藤木文博、中島博子、山本由美子、芝田翔平、中村三千代、長谷川加奈、高木さやか、福田育代、星川朋子、村上由依、森雅秀、井上匡美、仲哲治、朝長毅、清水義文、中川雅史、長谷川順一、根津理一郎、猪原秀典、泉本修一、野々村祝夫、吉峰俊樹、奥村明之進、森井英一、前田元、西田純幸、保仙直毅、坪井昭博、岡芳弘、杉山治夫)

平成26年 International Journal of Oncology 44巻 1461頁～1469頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、新たに構築した遺伝子トラップベクターを用いて、遺伝子ノックインに適したマウスゲノム領域を同定することを目的として行われた研究である。その結果、キメラ胎児を用いることで、ノックインに適したゲノム領域を効率的に探索できることを示し、さらに同法を用いて、遺伝子ノックインに有用であると考えられるゲノム領域を同定するに至った。本論文の内容は、ノックインに適したゲノム領域の不足という遺伝子工学上の課題を解決するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。